

ニッポンクラウドワーキンググル ープのご紹介

副会長
藤田 浩之

名称

ニッポンクラウドワーキンググループ
NIPPON Cloud Working Group (NCWG)

設立

2011年 11月1日 設立/活動開始

ニッポンクラウドワーキンググループ参加構成(2023年10月時点)

- メンバー企業 85社
- サムライクラウドサポーター 6人
- 協賛企業 21社



ニッポンクラウドワーキンググループ設立趣旨趣意

情報を繋ぐということがコンピュータ(computer)をコンピューティング(computing)へと昇華させたことで、サーバコンピュータやソフトウェアは、オンプレミスな「所有」から必要な時に必要なだけを利用するクラウドへとある種のパラダイムシフトを起こしていると言っても過言ではありません。この必要な時に必要なだけを利用できるということが、「クラウドコンピューティング」だといえます。

現在、各種のクラウドサービスは、サービス提供者から個別にサービスを提供されるのが一般的です。そのため利用者は、サービスごとに接続情報を個別に管理する必要があり、サービスを横断的に利用しづらいことで利便性を欠いていると言えます。その結果、利用者がクラウドサービスを利用することへのハードルを上げているともいえます。

そこで、ニッポンクラウドワーキンググループ(略称、NCWG)は、日本国内のISV(独立系のパッケージソフトウェアの開発・販売会社)やSler(System Integrator)、および関係各社が集まり各種の業種業態に対してニュートラルな立ち位置から「クラウド」上での国産アプリケーションの評価、連携のための技術的およびビジネス的な交流を積極的

に行うことで、日本から発信できるアプリケーションプラットフォーム(サムライクラウド)を作り上げ、それを推進力に日本のクラウドビジネスのマーケットを広げることを目的に設立することになりました。

ニッポンクラウドワーキンググループが前身の団体から進めている「サムライクラウド」では、ID、UI(User Interface)、データの三位一体連携による透過的なプラットフォームを実現することで、利用者にとってシームレスなクラウド環境を提供するとともに、サムライクラウドを基軸に様々なサービスに対してニュートラルな立ち位置

からあまねくクラウドサービスとの連携を視野に入れた全てのクラウドサービスの統合クラウド、すなわち「グランドクラウド」の実現を目指しています。

また会の名称にあえて作業部会的なイメージの「ワーキンググループ」を使う趣旨としては、我々ニッポンクラウドワーキンググループが、「日本のクラウドビジネス全体の作業部会」として日本のクラウドビジネスのマーケットの拡大に貢献するために実のある活動をして行きたいと設立者一同が強く望んでのことであり、その強い思いを会の名称に盛り込んでのことでです。

設立に伴いニッポンクラウドワーキンググループは、協賛各社の方々からご支援をいただいておりますが、あくまでもニュートラルな立ち位置から日本のクラウドビジネスの促進を目指して活動を行うものです。ニュートラルな立ち位置だからこそ出来ること、さらにニュートラルな立ち位置でなければ出来ないことが在ると考えています。このような目的のもとにこの度ニッポンクラウドワーキンググループを設立いたします。

サムライクラウド

- ✓ 日本から発出するクラウドビジネスモデルの構築を意義としての「サムライクラウド」
- ✓ IDやアプリケーション、UI、DATA連携など日本から発出できるクラウドサービスの技術的意義としての「サムライクラウド」

グランドクラウド構想

- ✓ サムライクラウドの理念を基軸に、ニュートラルな立ち位置から、あまねくクラウドサービスの技術的ビジネス的連携を実現し、全てのクラウドサービスを統合的に利用可能とすることで、あらゆる利用者にとって高い価値と利便性をもたらす

ニッポンクラウドワーキンググループ 2023年度スローガン

Beyond the Clouds2023 !

『クラウドケイパビリティをみがき、
クラウドビジネスの明日を創る！』

クラウドケイパビリティとは 『企業が得意とするクラウド提供能力 およびクラウド利活用能力』

ケイパビリティ (Capability)

- 高い品質や迅速なスピードなどライバル企業よりも優位に立てる能力
- 企業全体が持つ組織的な能力

➤ 企業が得意とする能力

- 企業成長の原動力となる組織的な強み能力
- 他社との差別化を図り持続的に競争に勝つ能力

➤ 基本的な活動方針

- クラウドサービスの利便性向上によるクラウドビジネスモデルの価値拡大
- 日本のクラウドビジネスのマーケットの拡大

参加各社のクラウドケイパビリティの掛合せ相乗効果(結)を基に、クラウドビジネスモデル(=サムライクラウド)の質(実)の向上と価値拡大による日本のクラウドビジネスの枠を少しでも広げること(結実)を目指す。

➤ 会の在り方として

ベンダーニュートラルな立ち位置だからこそ可能な
グランドクラウド構想の促進とクラウドサービス全般の「
利便性の向上」と「利活用の促進」に努める。

さらに会の活動を通して、参加各社の“知らない”ことによるクラウドビジネスの**機会損失の防止**に努める。

会の参加構成については、基本的に**クローズド**での利点を活かすことで、参加各社のアクティビティと質を高めながら、参加各社に有効なビジネス交流の機会を増やすことに努める。

会の規模については、引き続き緩やかな拡大を目指す。

➤2023年度の活動方針

ニッポンクラウドワーキンググループが、
参画各社へクラウドビジネスのための「情
報」と「意見交換の場」を提供することで、多
様化するクラウドビジネス協業の土壌をつく
る。

さらに、クラウドビジネスに有効なクラウドケ
イパビリティ(クラウドサービスの提供能力
と利活用能力)の拡充を目指す。